

令和元年(2019年)度 事業報告書

(2019年4月1日から2020年3月31日)

認定特定非営利活動法人フードバンク信州

I 事業の総括

「食品ロス削減」と「生活困窮者支援」の2つの課題に対して、多様な機関、団体、住民等との協働により「食」を通じた地域の支え合いの仕組みを構築し、長野県内の各地域に普及、定着させていく活動に取り組んだ。

フードバンク信州が目指す活動は、2015年に国連のサミットで採択された「SDGs」(持続可能な開発目標)の目標達成に合致する活動であるので、企業、行政、地域、家庭、学校と連携し活動を浸透させることを目指した。

2019年度は、次の柱に沿って事業を実施した。

- ① 多様な連携による食料の受け入れと提供
 - ・ 企業、団体等からの寄贈受入
 - ・ フードドライブの開催、普及
 - ・ 支援ニーズに対応した食料提供
 - ・ 食料入出庫管理システムの開発
- ② 地域拠点の機能強化とネットワークの活性化
 - ・ 地域拠点の活動推進(長野、上田、松本、飯田)
 - ・ 地域関係者の協働推進
 - ・ 地域内の食料循環ネットワークの構築
- ③ 「食」を通じた子ども支援
 - ・ 夏休み・冬休み子ども応援キャンペーンの実施
 - ・ 子どもの居場所活動への食料提供
- ④ 人材養成と地域づくり
 - ・ フードバンク活動推進セミナーの開催
 - ・ 企業、団体等のフードドライブ活動支援
 - ・ 広報、啓発活動推進

II 実施事業

1 食料の受け入れと提供

企業や家庭から食品の寄贈を受け、生活困窮者や子どものいる家庭等で、支援を必要としている世帯及び相談支援窓口などに提供し、生活支援を行った。

フードバンク活動の理解し協力をしていただく企業、団体、個人等は次第に増加し、1

年間にフードバンク信州に寄贈された食料は、約 30 トンとなった。このうち企業や団体などから寄贈された食料は 19 トン（63%）、県内各地域のフードドライブで集まった食料は 11 トン（37%）であった。

(1) 食料の受け入れ

① 企業・団体等から食料受け入れ

食料寄贈についての同意書を取り交わし、寄贈に協力いただいている企業は 2020 年 3 月末で 27 社となった。食料寄贈に協力する企業は、食品関連企業の他、社内の災害備蓄食料の入れ替えや、社内のフードドライブによる寄贈なども多く寄せられた。

団体では、J A長野中央会、長野県労働者福祉協議会、コープながの、ワーカーズコープ、高齢者生活協同組合などの多様な団体に協力いただいた。

② フードドライブによる食料受入れ

年間のフードドライブの開催回数は、長野、松本、上田の 3 地域の定期開催が 35 回、イベントなどでの開催が 103 回で計 138 回となった。県内各地域で行政、社会福祉協議会、ライオンズクラブ、商工会議所、企業、労働組合、高校などが独自に取り組んだイベント型フードドライブは、前年度の 1.2 倍となり、関心が高まっている。

松本、上田、飯田の 3 地域拠点においても、行政や関係団体のネットワークによるフードドライブの開催が進み、地域内で食料を循環させる動きが広がってきた。

(2) 食料の提供(支援)

フードバンク信州寄贈された食料（食品ロス）は、県内の生活・就労支援センター（まいさぼ）や民間の支援団体を通して、支援が必要な世帯に対して提供するとともに、相談窓口や支援団体、社会福祉施設、子どもの居場所などを支援した。

[食料提供の方法]

① 生活困窮者への個別支援

生活困窮者への食料支援は、長野県社会福祉協議会と長野市社会事業協会（ななせ仲まちなち園）が実施する食料支援事業と協働し食料提供を行っている。

フードバンク信州に寄贈された食料は、ななせ仲まちなち園において管理保管され、県内まいさぼからの申し込みにより困窮者個人に送付している。発送作業には、ななせ仲まちなち園の利用者も従事して就労体験の場となっている。

2019 年度は、県内のまいさぼから 721 人の申込みがあり、延 1,466 件、約 10.4 トンの支援を行った。

年度末には新型コロナウイルスの影響のため、2 月から 3 月の緊急食料支援申込件数が増加した。

② 子どもの食生活支援

子どもの貧困率が 13.6%で、7 人に 1 人が貧困といわれている中で、子どもの貧困 支援の関心が高まっていることから、フードバンク信州では、子どもに対する「食」支援の

活動に取り組んだ。2020年度は、子ども応援キャンペーンのモデル実施と子どもの居場所づくりを行う団体への食料支援の充実を図った。

ア 子ども応援キャンペーン

子どもの貧困の1つの現象として、夏休みや冬休みの長期休みで学校給食のない時期に、食料が不足する家庭に対して食料を届ける「子ども応援キャンペーン」を夏休みと冬休みの実施した

2020年度は、モデル事業の2年目の事業となり、須坂市、安曇野市、御代田町、富士見町の4地域で、地元の教育委員会及び社会福祉協議会との連携により実施した。

小学校の協力をいただき夏休み冬休みの期間中にモデル的に実施した。夏・冬合わせて延べ699世帯から申し込みがあり支援した。

(キャンペーン報告書は別添)

イ 子どもの居場所づくりへの食材提供支援

近年、子ども食堂など子どもの居場所づくり活動が増えている状況があり、活動のための食料調達のニーズが多くなっている。2019年度は、長野県が実施する「信州子どもカフェ推進地域プラットフォーム事業」と連携し、居場所を運営する団体に対する支援を行った。フードバンク信州本部が1年間で支援した延べ件数は135件、支援食料は1.5トンとなった。

このほか、松本、上田、飯田の各拠点においてもそれぞれの地域の子どもの居場所活動への食料支援を行っている

③ 災害被災者支援

2019年10月に発生した台風19号の被災者の生活を支援するため、被災直後から現地で支援活動を行う団体に対して、企業からの寄付やフードドライブで寄贈された食料を提供する活動を継続的に展開した。

10月から2020年3月までの延べ支援件数は33件、3,082kgの食料を提供した。

④ 新型コロナ対応支援

新型コロナウイルスの感染拡大による変化により生活困窮者の増加が進み、また学校一斉休校及び子ども食堂などの開催中止などにより子どものいる世帯の食料のニーズが高まり、フードバンク信州への支援要請が多くなり、迅速な支援体制をとった。

⑤ 相談支援機関・団体等の活動支援

生活困窮者の相談窓口や支援団体の緊急ニーズに対応するため、企業からの大量の寄贈食品や災害備蓄食料を緊急窓口支援用に県内のまいさぼ、社会福祉協議会、福祉事務所、民間の貧困支援団体などの機関・団体、施設等に提供した。

(3) 食料の入出庫管理システムの開発

食料の入庫・出庫の種類、量を把握、管理するためのシステム開発に取り組み、地域拠点と協働し一括管理体制整備に向けて準備を進めた。

〔食料受入実績〕（2019年4月～2020年3月）

区分	寄贈者	延べ件数	数量(個数)	重量(kg)
① 直接寄贈	企業	97	34,641	11,344
	団体	114	13,648	4,362
	個人	103	2,135	3,946
	計	314	50,424	19,652
② フードドライブ	定期開催	34	9,075	4,492
	各種イベント開催	104	17,632	6,092
	計	138	26,707	10,584
合計			77,131	30,236

〔食料提供実績〕（2019年4月～2020年3月）

区分	件数	重量(kg)	備考	
① 個人配送	1,466件	10,424	申込み—県内のまいさぼを通して申込みを受け 配送—ななせ仲まち園から個人あて直接郵送 ・連携窓口 まいさぼ 24か所 ・利用自治体 60市町村(721人)	
② 子ども支援		6,705		
	・子どもの居場所	191件	1,533	・子どもの居場所等の運営団体に食材提供 (※新型コロナ対応支援も含む)
	・子ども応援キャンペーン	699件	5,172	・夏休み 2回 延 353世帯 ・冬休み 1回 346世帯
③ 災害被災者支援	33件	3,082	台風19号の被災者支援団体への提供	
④ 相談支援機関 福祉施設・団体等	24件	8,877	・地域の相談支援機関の窓口(まいさぼ) ・市町村社会福祉協議会 ・社会福祉施設・支援団体等 (※新型コロナ対応支援も含む)	
合計		29,088		

2 地域における協働活動の展開

地域の関係者が連携して、地域内で食料の循環を図るしくみを構築するため、4か所（長野、上田、松本、飯田）の地域拠点を運営し、地域活動基盤の強化を図った。

(1) 地域拠点の活動推進

地域拠点は、下記の団体に事務所としての役割を委託し、地域の中で食料を循環する仕組みの核として活動を展開が定着してきた。それぞれの地域内でのフードドライブの

開催も増え、地域ごとの食料の収集、支援の仕組みが機能してきた。

- ・長野地域拠点 長野事務所
- ・松本地域拠点 ワーカーズコープ松本事業所
- ・上田地域拠点 社会福祉法人上田明照会
- ・飯田地域拠点 ほほえみのゆめプロジェクト

(2) 地域関係者会議の開催

拠点設置地域において活動にかかわる地域関係者会議を開催し、地域のニーズを把握、協働による活動展開の基盤づくりを行った。

2019年度は、松本、上田の2地域で開催し、それぞれの地域の行政、社会福祉協議会、困窮者支援団体、労働者福祉協議会など関係者が参加し、フードドライブの継続開催、地域のネットワークの拡大について協議した。

3 人材育成と広報啓発

(1) セミナーの開催

フードバンク活動についての理解を広め、協力者を増やすとともに、地域で活動を主体的に担う人材を確保するためのセミナーを開催した。

当初の計画では、「フードバンク活動推進セミナー」を4地区（長野、松本、佐久、飯田）で、「フードバンク活動担い手養成講座」を4地区（飯田、上田、木曾、長野）での企画を進めたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための自粛要請により、セミナーを長野会場1か所で開催するのみとなった。

セミナー概要

日時	2020年2月26日（水）
場所	長野市 長野市社会事業協会 にじいろキッズらいふ
基調講演	「SDGsとフードバンク活動」 —「食」を通じた持続可能な地域づくり— 講師：全国フードバンク推進協議会事務局長 米山広明氏
事例報告	① 企業の社会貢献活動の方針・企業市民としての自覚 柄木田製粉株式会社 総務本部 松沢 茂 さん ② 社会福祉法人の社会貢献とフードバンク活動 長野市社会事業協会 ななせ仲まち園 伊藤高志 さん
グループワーク	情報交換とネットワークについて意見交換

- ◎ 県内の地域や団体、学校などでフードドライブの開催を広めるため、「フードドライブ実践マニュアル」を作成し、セミナー、養成講座に参加できなかった地域に配布して活用を図ることとした。

Ⅲ 運 営

(1) 会員の構成

2020年5月31日現在

	団体	個人	合計
正会員	21	21	42
賛助会員	51	22	73

(2) 理事会

- 第1回 2019年4月23日 もんぜんぷら座 303 会議室
・平成31年度通常総会について
- 第2回 2019年7月5日 もんぜんぷら座 304 会議室
・夏休み子ども応援キャンペーンの実施計画について
・組織運営について
- 第3回 2019年9月20日 もんぜんぷら座 303 会議室
・セミナー・講座の開催計画について
・事務所の移転について
・入出庫管理システムの整備について
- 第4回 2019年12月11日 もんぜんぷら座 304 会議室
・冬休み子ども応援キャンペーンの実施について
・セミナー・担い手養成講座の開催について
・休眠預金を活用した助成事業について
- 第5回 2020年3月23日 もんぜんぷら座 303 会議室
・「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」
に基づく実行団体公募審査結果について
・各種規程の整備について